

■ふだんの対策

①家庭の防災会議

大地震のとき、家族が慌てずに行動できるように、普段から次のようなことを話し合い、それぞれの分担を決めておく。

- ▽家の中でどこが一番安全か
- ▽救急医薬品や火気などの点検
- ▽幼児や老人の避難はだれが責任をもつか
- ▽避難場所、避難路はどこにあるか
- ▽避難するとき、だれが何をもち出すか、非常持出袋はどこに置くか
- ▽昼の場合、夜の場合の家族み

んなの分担をはっきり決めておく

②家具等の転倒、落下防止

▽家具等は留め金などで固定しておく

③家族の安否の確認方法

- ▽地震時に落ち合う場所をあらかじめ決めておく
- ▽地震時に安否情報の取り次ぎをしてもらえる親せき、知人など（遠方に住んでいる人であることが必要）を決めておく

害時伝言板」の活用を家族で決めておく

④消火器などの備え

「いざというとき」のために、消火器や消防用水のほか、消火に役立つものを普段から用意し、備えておく

- ▽風呂には水をはってしておく
- ▽三角バケツの用意
- ▽床に散乱したガラスによるケガを防ぐため、厚手のスリッパや運動くつなどを用意する

要な準備をし、また、負傷したときに応急手当ができるように準備しておく

⑤非常持出袋などは、いつでも持ち出せる場所に備えておく

▽非常持出袋などは、いつでも持ち出せる場所に備えておく

⑥非常備蓄品の準備

▽非常備蓄品は、災害復旧までの数日間（最低3日分）を自足できるように準備しておく
例えば、飲料水、非常食品、卓上コンロおよびボンベ、その他の生活用品

⑦日ごろから防災訓練に積極的に参加し、防災行動力を身につける



▲あると安心、防災備品

9月25日

にかほ市 防災訓練を 実施します

- ・会場および内容については、広報と一緒に配布されているパンフレットをご覧ください。
- ・当日朝6時にサイレンを吹鳴します。
- ・訓練会場では、訓練のための広報やサイレンが鳴ったようになりますが、お間違えないようお願いいたします。



「自主防災組織」「消防団」

「自分たちのまちは自分たちで守る」という地域住民の自衛意識の高まりの中で、市には、集落単位、町内会単位の自主防災組織が88組織あり、結成率は87%になっています。各組織における活動は防災意識啓発事業などを行っています。また、消防団は消防活動だけでなく、あらゆる災害に対応できるよう訓練や防災活動を行っています。この二つの組織が核となって、地域の安全な暮らしが保たれています。

身近な強い味方

にかほ市消防本部

にかほ市消防本部では、市民約3万人の安全と笑顔を守るため、消防長以下64人が昼夜を問わず災害発生時に備えて、24時間体制で任務にあたっています。

点検

一日の始まりは朝8時30分の勤務交代からです。前日の勤務者から業務状況・連絡事項などを引き継ぎ、各緊急車両・資機材等の点検を入念に行い、災害発生時に備えます。

毎日繰り返すこの点検作業が、日々の安全と確実な消防活動に結びつきます。



訓練

消防は、火災や救急・救助等の災害現場において、より迅速適切な活動で、住民の生命・身体・財産を守るといった使命を課せられています。災害に対しては、その活動に限界があるにしても、どのような災害にも積極果敢に立ち向かって行くという責務があり、そのための訓練をおろそかにすることはできません。

訓練は、常に知識と技術の向上を図り、災害から住民を守ることに隊員の安全のために絶対的条件となるのです。

通信指令室



平成13年の新庁舎完成に伴い、緊急通信指令設備が導入され、最新鋭のコンピュータ機器を駆使して災害情報の収集を行っています。

119番通報の受け付けから出動指令までの操作を迅速・確実に、災害現場により早く確実に対応するための消防の中核と言える場所です。

救急

年々増え続ける救急出動に対して、救急隊（3人）2隊が高規格救急車2台で対応しています。昨年度の出動件数は千件近くに達し、ときには救急予備車も含めて、同時3台出動することもあります。

主に急病による救急要請が多いものの、心肺停止患者の要請も増えてきており、救急救命処置の拡大に対応できる、質の高い隊員の育成に力を入れています。



出動



「ウーウーウー」〇〇管内火災入電中」通信指令室への119番入電と同時に、庁舎内に予備指令が流れ、緊張感が漂います。訓練や事務等を行っていた署員が一斉に防火衣を着装し、ポンプ車に飛び乗ると、指令車・水槽車・ポンプ自動車次々と出動して行きます。